

研究課題 (テーマ)	よろずレポート相談所(年次を超えて学生同士が教え合い学びあう教育)		
研 究 者	所 属 学 科 等	職	氏 名
代表者	知能ロボット工学科	教授	小柳健一
	知能ロボット工学科	准教授	高野博史
	知能ロボット工学科	准教授	澤井圭
	知能ロボット工学科	講師	野田堅太郎
研究結果の概要			
本教育プログラムでは昨年度に引き続き、新規に TA に携わる学生らを対象とし、学部 1～3 年生ら、専門の実験・演習、レポート執筆などの専門的な内容を未習熟な学生らに指導するための方法を教育した。このため既に TA に従事した経験を持つ大学院生らをチューターとして迎え、新規 TA らに指導方法を教える機会を新たに設けた。 実験前後にチューターらを交えて指導の機会を設けるだけでなく、チューターとともに実験・演習に参加してもらうことで実際の指導方法を直に体験し、学んでもらう機会も設けるなど、いくつかの指導方法を併用し、実験・演習の指導方法について新規 TA らに学んでもらった。 2023 年度は、新入生オリエンテーション、ロボット創造演習および知能ロボット工学実験 1、2 にて新規 TA らに向けた講習を実施し、未習熟者への指導方法・レポートの作成方法などの指導法を教えるためのサポートしてもらった。 また、これらの実験・演習でも使用する消耗品を実際に購入し、実演を踏まえて新規 TA らに指導方法を学んでもらうことによって、より円滑に指導方法を学ぶことができる環境を設けた。 新規 TA の指導に教員だけではなく、大学院生のチューターらにもサポートに入ってもらい、学生目線からの実験・演習・レポート作成の不明点と指導方法に関する知見を TA らに習熟させることで、これまで問題になっていた引継ぎ問題を解決する上で有効であることが確認できた。またチューターとして参加した大学院生らの指導力の向上につなげることができたものと考ええる。 また 2022 年度に購入した機材を用いて実習を受けた学生アルバイトらが今年度の新入生オリエンテーションに参加し、新一年生らの PC セットアップのサポートを行ったことにより、非常に円滑に新一年生らの PC 設定を終えることができた。同様に 2023 年度に購入した 3D プリント材料などを用いて実践することで TA らの指導力の向上につながったもの考える。			
今後の展開			
次年度以後、継続して TA の指導力を向上するためのチューター制度を維持しつつ、学部生のレポート・論文などの科学的な文献の作成方法の基礎を学ぶための基礎的な資料の準備を行うことを予定している。特に学生目線で理解がしやすい資料を準備・作成するため、学生チューターらと共に資料の収拾・精査を行い、また学生チューターらの意見を取り入れた資料の作成を行うことを予定している。			